

2025 年度

工学部 体育・健康科目運営会議

自己点検・評価報告書



2025 年 5 月 1 日

目 次

第1章 学修・教育到達目標	3
1. 現状分析	3
2. 分析を踏まえた長所と問題点	3
3. 改善・発展方策と全体のまとめ	3
4. 根拠資料	3
第2章 教員	4
1. 現状分析	4
2. 分析を踏まえた長所と問題点	4
3. 改善・発展方策と全体のまとめ	5
4. 根拠資料	5
第3章 教育プログラム	6
1. 現状分析	6
2. 分析を踏まえた長所と問題点	8
3. 改善・発展方策と全体のまとめ	8
4. 根拠資料	9

第 1 章 学修・教育到達目標

1. 現状分析

体育・健康科目の学修・教育到達目標は、「心と身体の健康を管理できる能力を養成し、身体機能の維持・増進に加え、モラルの体得をねらいとしたスポーツを通じた教育(スポーツマンシップ教育)の実践により、社会の一員として誇りと責任を持ち、社会と他者への貢献ができる」としており、工学部ディプロマポリシー(資料 1-1)の「1. 豊かな人格形成の基本と基礎的な学力を備え、課題を自ら発見し、関係する人々と意思疎通を図りながら協働できる。」「3. 工学技術者教育や研究を軸とした実践型教育を通じ、社会の多様性を認識して高い倫理観を持った理工学人材として行動できる。」を具体化したものである。

2. 分析を踏まえた長所と問題点

体育・健康科目の学修・教育到達目標は工学部ディプロマポリシーに対応し、かつ具体化したものであり、カリキュラムポリシーに沿って科目が適切に設定されている。

3. 改善・発展方策と全体のまとめ

課程制の開始にあたり、工学部の教育研究上の目的・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーが検討され、全課程で「スポーツ科学実技 1」が必修科目となった。今後も社会の要請の変化や大学・学部理念・目的の改定に合わせて定期的に点検し、改善することが必要である。また、今後さらに学修効果を上げるためには、大学教育の中で体育・健康科目を学修することの意義を学生自身が深く理解する必要があると考えられ、授業の目標を学生に理解しやすい形で伝える必要がある。

4. 根拠資料

1-1 工学部ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー (<https://www.shibaura-it.ac.jp/faculty/engineering/#anc4>)

第2章 教員

1. 現状分析

2025年度は専任教員3名(教授3名(63歳男性、51歳男性、43歳女性)、非常勤講師12名の体制で学生の教育にあたっている。教員組織の編成については、大学として求める教員像および教育組織の編成方針(資料2-1)に基づき、教員組織を編成している。

担当授業に対する教員の適正は、各教員の専門分野・教育研究業績・体育における競技経験および指導経験および保健体育における特殊技能(資料2-2)を基準とし、担当科目(実技は種目)を決定している。専任教員については芝浦工業大学専任教員人事規定および教員資格審査規定による5年ごとの再審査を受け、その研究教育能力について授業を担当するに適することが確認されているほか、教員個人の達成目標と活動計画・貢献比率を記載する「教育・研究等業績評価」を活用することで、大学教員に求められる能力・資質の維持・向上が図られている。

専任および非常勤講師の募集・採用については、芝浦工業大学専任教員人事規定および芝浦工業大学専任教員任用手続き規定に則って行っている。具体的には、各応募者の上記に挙げた専門分野・教育研究業績に加え、体育における競技経験および指導経験、保健体育における特殊技能を有するかを書面にて審査し、その後面接で教員としてふさわしい人物であるかを確認する手続きを踏むことで、公正性に配慮した人事を行っている。

教員組織については、毎年次年度時間割を作成するタイミングで、人数・どのような専門の教員が必要かについて検討を行っている。

2. 分析を踏まえた長所と問題点

教員組織については、専任・非常勤ともに年齢や性別に偏りが生じないように配慮し、バランスの取れた構成となっている。また、各教員の研究(資料2-1)は科目適合性が高く、学生の学修成果の達成につながるような教員構成であることが長所と言える。一方で、2024年度課程制開始に伴ってスポーツ科学実技が必修科目となったことに加え、専任教員が所属する課程での担当授業が増加したこと、ゼミおよび大学院生の担当が増加の傾向にあることより、担当授業時間数が超過しないよう管理することが難化していることが問題として挙げられる。

教員の募集、採用等に関わる手続きは明確な手続きに沿い、公正性に配慮しながら人事を行っている。また、専任・非常勤講師ともに年齢構成や性別に著しい偏りが生じないように配慮している。

教員組織については、年に一度次年度時間割を作成時に定期的に点検するとともに今後数年を見越した課題を共有し、適切に点検・評価を行っている。

3. 改善・発展方策と全体のまとめ

課程制移行に伴いより多くの学生が実技授業を受講ようになること、および数年内に起こる教員の定年退職を見据え、専任教員の人事計画を教育研究上の目的および将来計画に照らし合わせて作成し、学部長に伝える必要があると考えられる。

4. 根拠資料

2-1 大学として求める教員像および教員組織の編成方針(https://www.shibaura-it.ac.jp/about/summary/various_policies.html)

2-2 芝浦工業大学教員データベース(<http://resea.shibaura-it.ac.jp>)

第3章 教育プログラム

1. 現状分析

体育・健康科目は工学部カリキュラムポリシー(資料 1-1)に沿って教育課程の中の「基礎・教養科目」の科目の中の1科目として、社会の要求、多様な価値観を理解し、他者と共同して主体的に行動できる能力を育成する科目として配置されている。体育・健康科目では、実技科目と理論科目を提供しており、2024年度課程制移行後は全課程で「スポーツ科学実技1」が必修科目となっている。

体育・健康科目では、実技科目、講義科目、演習科目を提供している。実技科目ではスポーツ活動を通じてスポーツマンシップを実践し、コミュニケーション能力やリーダーシップ・チームワークの修得を目指し、講義科目と演習科目ではスポーツや健康に関する基礎知識と健康をマネジメントする能力の修得を目指している。これらの学修内容は工学部の教育研究上の目的の一つである「他者との共生」を具体化したものである。

具体的な科目は以下の通りである。

【実技科目】

・「スポーツ実技1～4」 開講種目は、バドミントン(開講数：前期6コマ、後期4コマ)、卓球(開講数：前期7コマ、後期7コマ)、ゴルフ(開講数：前期3コマ、後期4コマ)、ゴルフ2(開講数：集中)、フライングディスク(開講数：前期2コマ、後期1コマ)、テニス(開講数：前期5コマ、後期3コマ)、フットサル(開講数：前期5コマ、後期6コマ)、サッカー(開講数：後期1コマ) ウェルネススポーツ(開講数：前期4コマ、後期5コマ)、バスケットボール(開講数：前期4コマ、後期4コマ)、バレーボール(開講数：前期3コマ、後期1コマ)、ソフトボール(開講数：前期2コマ、後期2コマ)、軟式野球(開講数：前期1コマ、後期1コマ)、eスポーツ(開講数：前期2コマ、後期3コマ)、スキー(集中)であり、運動強度の異なるチームスポーツと個人スポーツの両方を提供している。授業ではスポーツの実践を通して社会性および体力の向上を図り、安全やリスク管理について解説する。また、授業期間を通じて生活習慣の改善に取り組みせ、心身の健康マネジメントのスキルを習得させる。

【講義科目】

・「スポーツ健康学」 人間が生活する上で必要不可欠である「健康」がスポーツとどのように関連しているかについて、様々な角度から考え、理解することを目的としている。また、スポーツの実践によって得られる効果・効能に関する正しい知識について解説する。

・「スポーツバイオメカニクス」 スポーツ動作の良し悪しの原因を探るためには、動作の見方・捉え方や分析すべき目の付け所を決めることが大切となる。また、パフォーマンスの向上ばかりではなく、日常生活におけるケガの予防の観点からも、動作を的確に捉えることは重要である。スポーツ動作に限らずヒトの動作を客観的に捉え、それを

さまざまな場面に生かせるように解説する。

【演習科目】

・「コンディショニング演習」

健康を維持・増進するための知識基礎を習得し、客観的な数値から自分に適したトレーニングを計画・立案し、実施できるようにしていく授業である。したがって、講義だけでなく、トレーニング実技を行うハイブリッド型の授業として展開していく。

教員配置は、前期 47 授業のうち 12 授業、後期 47 授業のうち 13 授業を専任教員が担当している。

すべての科目のシラバスに、授業の目的、授業計画、達成目標、対応する mDP、評価方法、評価基準、授業時間外課題の具体的内容と必要学修時間が明記されており、学生が効果的に学習を進めるために必要な情報が十分に提供されている。2024 年度課程制移行後は全課程で「スポーツ科学実技 1」が必修科目となっており、学生は時間割の制約の中で開講されているスポーツ種目の中から各自希望の種目の履修登録を行う。履修登録単位は、前期・後期の各期に 1 単位を上限とし、1~4 年生まで 4 年にわたって自由に選択して履修することができ、最大 4 単位認定される。(1 は必修、2 は選択、3, 4 は自由科目となるため、卒業要件に算入される単位は最大 2 単位である。)

2020 年度の新型コロナウイルス感染症の流行を機に、Zoom 等のリモート会議システムを導入し、遠隔授業を行う体制を整えた。その後、登校が可能となったタイミングで対面での授業実施を基本とした。現在は講義科目において欠席者や配慮が必要な学生への対応のため、授業内容を録画し必要に応じて閲覧できるようにしている。授業内で課される課題は、すべて ScomBZ を利用して提出するようしており、学生自身で課題の提出状況を把握できるようにしている。

合理的配慮が必要な学生に対しては、事前の申請に基づき配慮すべき内容の把握を行い、対応を行っている。

成績評価および単位認定はシラバスに明記された「評価方法と評価基準」、「達成目標と評価方法」との対応・割合に従い厳格な評価を公正・公平に実施している。

教育課程およびその内容、教育方法については、工学部教育プログラム自己点検・FD 委員会(23 年まで工学部教育プログラム自己点検委員会)を中心として毎年実施している。また、シラバスチェックによる科目内での教育点検も同様に毎年実施している。科目運営会議を月 1 回開催し、学習状況の調査と教育点検を実施している。また、毎年 3 月に専任教員と非常勤講師が打ち合わせする機会を設け、科目の教育目標・教育方針・成績評価の方法を確認し、点検している。(資料 3-1)

オンデマンド授業への取り組み

オンデマンド授業日(2025 年 5 月 5 日、5 月 17 日)に行ったオンデマンド授業について、体育科目では当該授業日の全授業を休講とした。休講とした理由は二点ある。一点

目はオンデマンド形式での授業実施への対応の難しさがある。実技科目では対面実施を基本として学生が身体活動を実施しながら他の履修学生とコミュニケーションを取り、協力して学びを進める学修形式を取っており、授業内で教員は学生の学びを促進する声掛け等のサポートを行いながら同時に参加学生の体調を観察して安全管理を実施している。そのため、授業内で学生の学びを担保できない上に、安全管理の面で十分な体制を整えることができない懸念があった。

二点目の理由は、授業構成を鑑みて学生にとって理解しやすい学修の順序と実技授業の回数確保の折り合いがつかなかったためである。オンデマンド形式の授業では実技科目では第1週目と第2週目に実技科目を受講するにあたって前提となる情報の講義を行った上で第3週から実技を行う授業構成となっているため、第1週と3週、もしくは2週と3週の授業内容を入れ替えた場合に、学生の学びが担保できなくなることを懸念した。また、実技科目であることから、体を動かす機会である実技授業の回数を確保することも重要と考えた。

休講の代替方法は、第一週の授業内容を事前収録した動画を第一週の授業前に学生に視聴させ、第一週の授業では動画の内容確認と第二週に予定されている授業を実施し、第二週から実技授業を開始した。

2. 分析を踏まえた長所と問題点

体育・健康科目では、教員が授業内容について議論し、教育内容の点検が適正に行われている。2024年度課程制移行後は全課程で「スポーツ科学実技1」が必修科目となっており、学生は時間割の制約の中で開講されているスポーツ種目の中から各自希望の種目の履修登録を行うが、各自の体力レベルや健康状況により実技授業への参加が困難なケースがあった。そのような場合は、身体に負荷のかかりにくい参加の形式(試合実施時の審判等の役割やゲーム戦略の立案等)を組み合わせることで授業に参加させ、十分な学修効果が得られるよう対応している。また、第2章でも述べた通り、2024年度課程制開始に伴いスポーツ科学実技が必修科目となったことに加え、専任教員が所属する課程での担当授業の増加、ゼミおよび大学院生の担当が増加の傾向にあるため、専任教員の担当授業時間数管理および教員配置が難しく、改善の必要がある。

3. 改善・発展方策と全体のまとめ

全課程での「スポーツ科学実技1」の必修科目化に伴い、今後は様々な実技授業への参加が困難なケースが出てくるものと予測される。そのような学生に対し、十分な学習効果が得られる形での対応を都度教員で情報共有しながら行う必要がある。教員配置については、数年内に起こる教員の定年退職も考慮しつつ専任教員の人事計画を教育研究上の目的および将来計画に照らし合わせて作成し、学部長に伝える必要がある。

4. 根拠資料

3-1 芝浦工業大学 体育教員ハンドブック